

がんゲノム医療に携わる医師等の育成に資する研究

中谷 中・三重大学医学部附属病院・中央検査部・部長・教授

研究要旨

主としてがんゲノム医療中核拠点病院等以外に勤務し、がん診療に携わる医師等を対象にがんゲノム医療に携わる医師等が備えるべき知識や資質について検討した。また、身につけるための方策を検討の上、医師等を対象に、研修実施者の育成も念頭に置いた上で、研修の実施を準備した。がんゲノム医療に必須の知識を身につける際に求められる研修資料、教育プログラムの策定、モデル研修会の実施と評価法の策定を行った。

A. 研究目的

がんゲノム医療に携わる医師等が備えるべき知識や資質について検討し、そのような知識や資質等を身につけるための方策を検討の上、医師等を対象に、研修実施者の育成も念頭に置いた上で、モデル研修及び研修を実施し、評価を行うこと。主としてがんゲノム医療中核拠点病院等以外に勤務し、がん診療に携わる医師等を対象に、がんゲノム医療に必須の知識（がんゲノム医療に必要な用語の知識、遺伝子パネル検査の原理やレポートの理解、遺伝子パネル検査の活用方法、遺伝性腫瘍に関する知識等）を身につける際に求められる研修資料やe-learning及び研修プログラムの作成と研修の実施及び評価を行う。上記の研修の実施・評価の結果を踏まえて、研修資料、e-learning及び研修プログラムを改訂、完成させる。

B. 研究方法

- ①医師等が備えるべき知識や資質等を明らかにする。（2020年3月までに）
 - ①-1. 医師等が備えるべき知識や資質等について検討する。
 - ①-2. ヒアリングの結果から課題を抽出する（2020年3月までに）。
- ②教育用プログラムの作成（2020年3月までに）
 - ②-1. 教育目標を設定する（2020年3月までに）。
 - ②-2. ディプロマポリシーを設定する（2020年3月までに）。
 - ②-3. 到達目標等を設定する（2020年3月までに）。
 - ②-4. 教育用プログラム原案を策定する（2020年3月までに）。
 - ②-5 教育用プログラム原案をレビューする（2020年3月までに）。
- ③ 研修用資料の作成（2020年10月までに）。
- ④ モデル研修会の実施、評価、研修用資料の改定（2021年3月までに）
 - ④-1 モデル研修会の実施（2021年3月までに）
 - ④-2 モデル研修会の評価（2021年3月までに）
 - ④-3 研修用資料の改定（2021年3月までに）

- ⑤ 研修の実施（2021年12月までに）
- ⑥ 研修実施者の育成（2021年12月までに）
- ⑦ 研修実施者のビデオ撮影の公開（2022年3月までに）
- ⑧ 教育用コンテンツのブラッシュアップ（2022年3月までに）
- ⑨ 生涯教育への活用（2022年3月までに）
（倫理面への配慮）
該当せず。

C. 研究結果

- ①医師等が備えるべき知識や資質等を明らかにした。
 - ①-1. 医師等が備えるべき知識や資質等について検討した。
 - ①-2. ヒアリングの結果から課題を抽出した。
関係者へのヒアリングが終了したものについて、研究代表者、分担者と共に課題抽出を行った。「達成済み」
- ②教育用プログラムを作成した。「達成済み」
 - ②-1. 教育目標を設定した（2020年3月までに）。抽出した問題点等を踏まえ、研究代表者、分担者と共に教育目標を設定した。
がんゲノム医療中核拠点病院以外の拠点病院、連携病院等で、がんゲノム医療に従事する医師等が備えるべき知識や資質等を習得し、がんゲノム医療を患者に提供することを教育目標とした。「達成済み」
 - ②-2. ディプロマポリシーを設定した（2020年3月までに）。抽出した問題点等を踏まえ、研究代表者、分担者と共にディプロマポリシーを設定した。一般目標を達成するために必要な講義およびアクティブ・ラーニングの研修を受講し、その学習効果が到達目標に達したことを事後評価で客観的に検証した上で、研修を修了することを目指すことをディプロマポリシーとした。「達成済み」
 - ②-3. 到達目標等を設定した（2020年3月までに）。一般目標を研究代表者、分担者と共に検討し、

「がんゲノム医療の実用化に必要な医療従事者として、遺伝子関連検査、患者・家族への伝え方、多職種との連携、意思決定支援等について必要な知識・態度・技術を習得する。」とした上で、下記の15項目を到達目標と定めた。

1. Pre-analysis段階における検体の品質管理の留意点を把握し、適切な病理検体を遺伝子パネル検査用に提出することができる。
2. 遺伝子パネル検査の特徴を説明できる。
3. 遺伝子パネル検査にかかわる遺伝学的及び分子生物学的用語が理解できる。
4. 遺伝子パネル検査の同意説明時に、遺伝子パネルのメリット・デメリットについて適切に説明ができる。
5. エキスパートパネルに参加し、主治医としての役割を果たし協同することができる。
6. エキスパートパネルのレポートの内容を理解、説明できる。
7. エキスパートパネルのレポートに基づき、結果を患者に簡潔に説明できる。
8. エキスパートパネルのレポートに基づき生じる問題について多職種との連携を含めた問題解決能力を発揮できる。
9. 遺伝子異常のエビデンスレベルについて概略を説明できる。
10. がんゲノム医療に関するガイダンス等の指針について説明することができる。
11. 意思決定支援を行うための患者申出療養、治療について説明できる。
12. 生殖細胞系列変異と体細胞変異の違いを説明できる。
13. 二次的所見に関して説明し、次のとるべきアクションを説明できる。
14. 遺伝子パネル検査の説明に必要な薬物療法等に関わる知識として、対象がん種の診療ガイドラインを理解する。
15. C-CATレポートを参照することができる。

「達成済み」

②-4. 教育用プログラム骨子案を策定した(2020年3月までに)。

教育用プログラム原案を策定した。「達成済み」

②-5 分担研究者によるレビューを完了した(2020年3月までに)。

教育用プログラム原案をレビューした。主に到達目標に関する項目の追加、変更について議論し、改定した。「達成済み」

③ 研修用資料を作成した(2020年10月までに)。

教育用プログラム原案を基に研修用資料を作成に取り掛かった。また、研修用資料作成にあたり、モデル研修会の構成および評価法の検討を行い、同内容を踏まえた研修用資料作成を行った。その際、研修会の実施時期を2020年3月と定め、本年度内の研修会の実施を計画した上で、特に、事例の提示し議論するための資料の準備を行った。COVID-19の影響により3月の研修会の実施は中止した。「達成済み」

D. 考察

研修会実施準備において、参加者の希望を募ったが、数日で定員(約100名)を超える応募があった。このことから、がんゲノム医療中核拠点病院等以外に勤務し、がん診療に携わる医師等において、がんゲノム医療に必須の知識の習得の希望が多数であると知れた。C-CATレポートを活用する研修で、効率的な研修プログラムが実施できる可能性が示唆された。

E. 結論

がんゲノム医療に携わる医師等が備えるべき知識や資質について具体的な項目が検討できた。身につけるための具体的方策が定められた。それらの方策が有効であるかを研修会等で実証することが必要である。実施・評価の結果を踏まえて、研修資料、e-learning 及び研修プログラムを改訂、完成させる。

F. 健康危険情報

該当せず

G. 研究発表

1. 論文発表

Koiwa J, Shiromizu T, Adachi Y, Ikejiri M, Nakatani K, Tanaka T, Nishimura Y. Generation of a Triple-Transgenic Zebrafish Line for Assessment of Developmental Neurotoxicity during Neuronal Differentiation. *Pharmaceuticals (Basel)*, 12(4), 2019.

Takeuchi K, Xu Y, Kitano M, Chiyonobu K, Abo M, Ikegami K, Ogawa S, Ikejiri M, Kondo M, Gotoh S, Nagao M, Fujisawa T, Nakatani K. Copy number variation in DRC1 is the major cause of primary ciliary dyskinesia in the Japanese population. *Mol Genet Genomic Med*, 8(3): e1137, 2020.

2. 学会発表

中谷 中：教育セミナー「遺伝医学関連情報へのアクセス」第64回日本人類遺伝学会大会(2019/11)長崎

中谷 中：特別講演「検査室は、ゲノム医療の波にどう乗るか？」第62回日本臨床検査医学会近畿支部総会(2019/10)草津

中谷 中：シンポジウム「がんゲノム医療の現状と課題：がんゲノム医療に必要な精度管理・検査の立場での課題」第26回日本遺伝子診療学会学術

集会(2019/8)札幌
下仮屋 雄二, 森本 誠, 中谷 中 「線溶病態の評価におけるDダイマー(DD)/フィブリノゲン・フィブリン分解産物(FDP)比の有用性」 日本臨床検査自動化学会誌 44(4): 497, 2019.
下仮屋 雄二, 中村 小織, 笠井 久豊, 森本 誠, 山本 幸治, 中谷 中 「三重県臨床検査精度管理調査で実施した活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)試薬の特性評価」 日本検査血液学会雑誌 20(3): 414-23, 2019.
森本 誠, 岡 春陽, 池尻 誠, 下仮屋 雄二, 杉本 和史, 中谷 中 「医療法等の一部改正に伴う検体検査の精度確保に関する取り組みについて」 臨床病理 67(補冊): 180, 2019.
増田 千秋, 杉本 匡史, 藤田 直美, 大本 清香, 森本 誠, 香川 芳彦, 中谷 中, 伊藤 正明 「特発性拡張型心筋症に運動時周期性呼吸と睡眠時チェーン・ストークス呼吸を合併した1例」 日本心臓病学会学術集会抄録 67回: O-150, 2019.
大本 清香, 藤井 忍, 今井 朋世, 白本 裕平, 藤田 直美, 樋口 恵一, 増田 千秋, 森本 誠, 中谷 中, 伊藤 正明 「ABI検査所見を用いた大動脈弁閉鎖不全症におけるヒル徴候についての検討」 日本心臓病学会学術集会抄録 67回: O-294, 2019.
池尻 誠, 中村 麻姫, 森本 誠, 杉本 匡史, 杉本 和史, 中谷 中, 内山 俊正, 和田 英夫 「MLPA法にて見つかった先天性プロテインC欠乏症の一例」 日本血栓止血学会誌 30(2): 459, 2019.
中村 麻姫, 池尻 誠, 下仮屋 雄二, 森本 誠, 杉本 和史, 中谷 中 「造血器腫瘍遺伝子検査と移植関連ウイルスDNA定量検査の精度管理」 臨床病理 67(補冊): 286, 2019.

中谷 中 「がんゲノム医療の現状と課題 がんゲノム医療に必要な精度管理 検査の立場での課題」 日本遺伝カウンセリング学会誌 40(2): 46, 2019.

渡邊 孝康, 元村 英史, 河野 修大, 藤井 忍, 白本 裕平, 増田 千秋, 樋口 恵一, 森本 誠, 乾 幸二, 岡田 元宏, 中谷 中 「聴覚誘発脳電位における音源の位置と移動方向の影響 両耳間時間差を用いた検討」 臨床神経生理学 47(5): 427, 2019.

藤井 忍, 元村 英史, 渡邊 孝康, 白本 裕平, 増田 千秋, 樋口 恵一, 河野 修大, 森本 誠, 乾 幸二, 岡田 元宏, 中谷 中 「異なる音特性変化に対する変化関連脳活動とその抑制」 臨床神経生理学 47(5): 427, 2019.

白本 裕平, 元村 英史, 藤井 忍, 渡邊 孝康, 増田 千秋, 樋口 恵一, 森本 誠, 岡田 元宏, 中谷 中 「聴覚変化応答からみた過眠症の認知機能障害」 日本睡眠学会定期学術集会プログラム・抄録集 44回

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし